TRAILHEAD GLOBAL HOLDINGS

TSE Standard ／ **3358** ／ est. 1994



山小屋 ・ 焼肉やっぱ。 ・ KINKA ・ 三代目玄 KURO ほか

対象期間 / Period	発行日 / Issued	区分 / Type
2026.04 – 2026.09	**2026年11月13日**	**決算説明資料**

FY2027 · Q2 Supplementary Material

2027年3月期 第2四半期（中間期）決算説明資料

売上高は前年同期の2.1倍、10期ぶりの復配へ
M&Aを加速し、国内の成長と海外展開を同時に進めるステージへ

Trailhead Global Holdings株式会社 · 2026年11月13日

CONTENTS

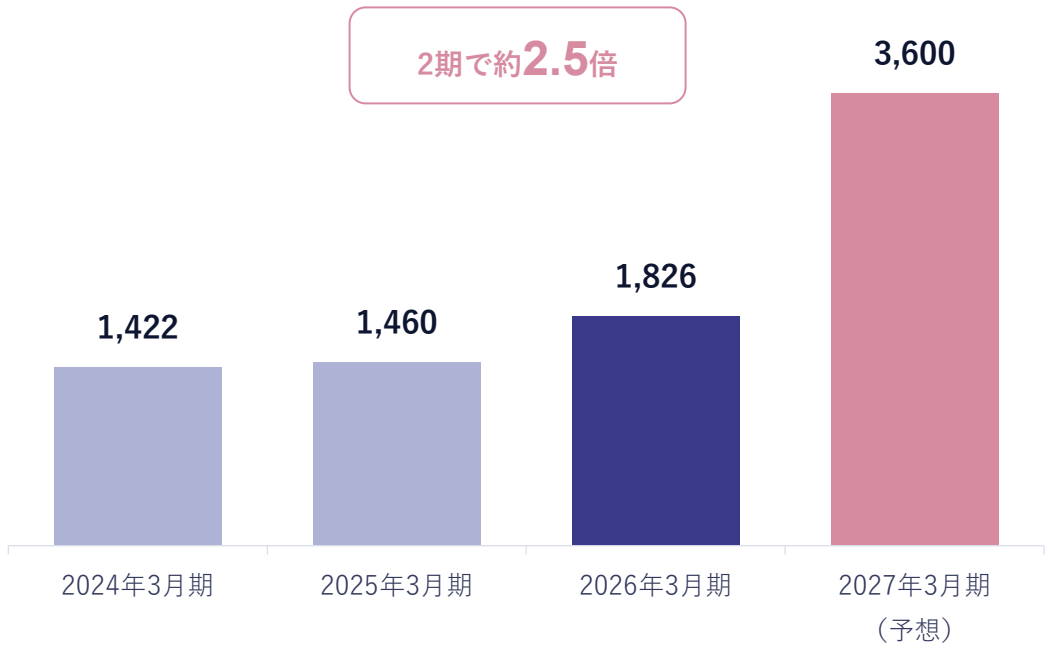
本資料の構成

①	**上期ハイライト**	Q2決算のポイント、ブランドと店舗、売上高・各利益のサマリー
②	**損益・セグメント**	利益の内訳と、4区分のセグメント別業績
③	**月次動向**	月次売上高（4〜9月）と子会社別・業態別の推移
④	**財政状態・キャッシュ・フロー**	のれん計上による総資産の拡大と資金調達
⑤	**第2四半期のトピックス**	7〜9月の主な開示事項、WaoPadの導入開始と目指す姿
⑥	**通期業績予想・株主還元**	上期から通期へのブリッジ、10期ぶりの復配、株主優待
⑦	**今後の展望**	M&A×国内×海外の成長戦略、飲食事業承継事業（THG Cairn Alpha）

KEY MESSAGES

売上高は2期で約2.5倍へ（通期予想）。成長投資を続けながら、株主還元を再開

売上高の推移（百万円）



売上高（上期・前年同期比）

2.1倍

上期売上高1,551百万円。調整後EBITDA・営業利益・経常利益・純利益も、すべて前年同期を大幅に上回る

復配（中間配当1円を実施）

10期ぶり

2017年3月期以来の配当。11月30日に支払開始。年間2円（中間1円・期末1円）を予想

国内M&Aと事業承継

M&A継続

上期にSBWorks・食べる社を取得。現在も複数案件でDDを実施中。飲食事業承継事業も始動

海外展開のアクション開始

海外へ

台湾：合弁設立の基本合意／モンゴル：商品供給の業務提携／スリランカ：出店検討を開始

グループの主なブランド

山小屋 / 焼肉やっぱ。 / 神戸牛焼肉 當麻 / KINKA / BURGER REVOLUTION / 三代目玄 KURO / SBWorks

出所：各期の決算短信。2027年3月期は2026年5月15日公表の予想、「2期で約2.5倍」は2025年3月期実績（1,460百万円）比。前回の配当は2017年3月期の期末配当（1株5円）。

OUR BRANDS AND STORES

九州の創業の地から中国・四国、関西、首都圏、そして海外へ



ラーメンは国内全店（2025年8月時点の店舗一覧）、焼肉・専門店は主な店舗。海外は地図外

115店舗

2026年9月末の飲食事業の店舗数（直営・FC・海外の合計）

直営 22	FC 71	海外 22

ラーメン
103店

「山小屋」「ばさらか」「一康流」「やまごや」ほか。九州・中国地方を中心にFCで展開する当社の祖業

焼肉
5店

「焼肉やっぱ。」（中野新橋本店/駅前・駒沢・深沢）、神戸牛焼肉「當麻」。（なお10月に新百合ヶ丘店開業済）

その他専門店
7店

KINKA（寿司）、バーガーレボリューション、ROTISSERIE★BLUE など

出所：半期報告書（第33期中）。店舗数は2026年9月末（ラーメン部門103・焼肉部門5・その他専門店7。うち直営22・FC71・海外22）。

H1 FY2027 HIGHLIGHTS (APR–SEP 2026)

売上高は前年同期の約2.1倍。調整後EBITDA・営業利益・経常利益・純利益はいずれも前年同期を大幅に上回る

売上高
1,551百万円
前年同期比 +107.4%（前年同期 748百万円）

調整後EBITDA
70百万円
前年同期比 +149.8%（前年同期 28百万円）

営業利益
17百万円
前年同期比 +435.3%（前年同期 3百万円）

経常利益
41百万円
前年同期比 +104.4%。補助金収入22百万円等を含む

親会社株主帰属中間純利益
35百万円
前年同期比 +153.3%。固定資産売却益36百万円（特別利益）を含む

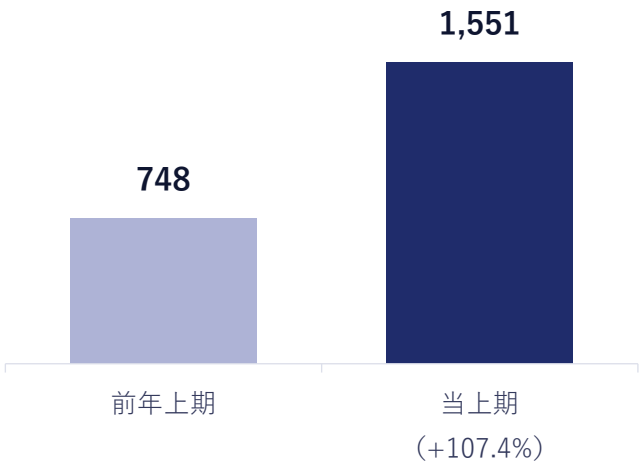
自己資本比率
58.8%
前期末66.5%（M&Aによるのれん計上等で低下）

※ 調整後EBITDA＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却費＋株式報酬費用＋一過性のM&A関連費用。前年同期は2026年3月期中間期の実績。

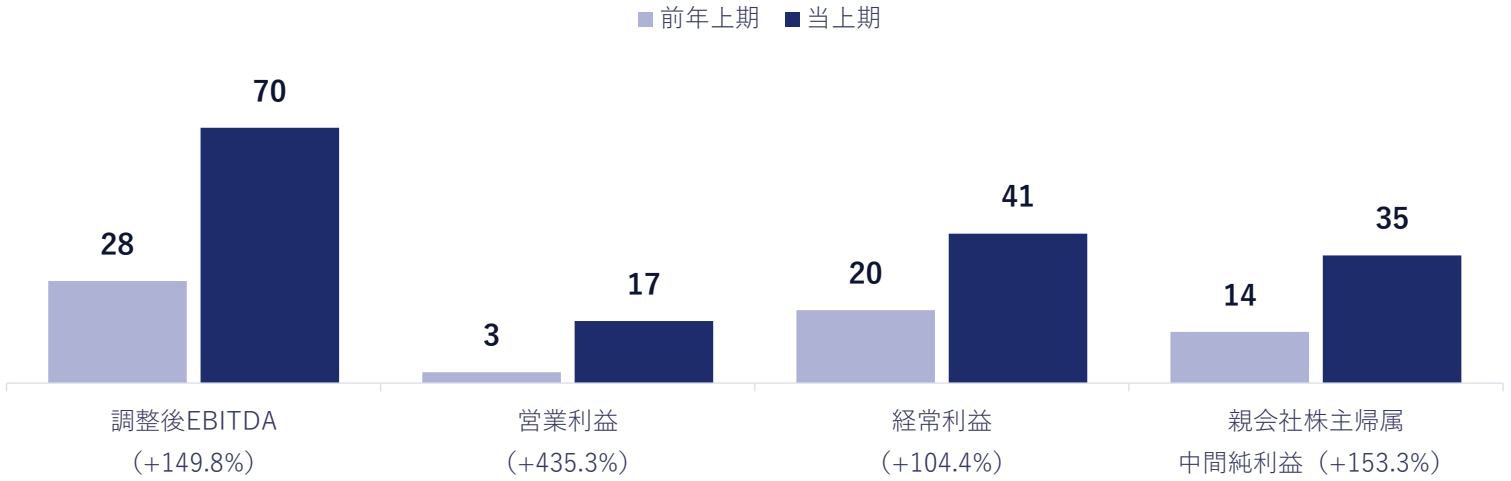
CONSOLIDATED P&L SUMMARY

大幅な増収増益 — 売上高2.1倍・営業利益5.4倍・経常利益2.0倍

売上高（百万円）



利益（百万円）　前年上期 → 当上期



増収増益の主な要因

- 前連結会計年度に取得した子会社群が上期を通じて連結され、飲食事業が540百万円の増収（前年同期比80.1%増）
- SBWorks（2026年4月取得）の連結により、フードテックDX事業の売上高274百万円・セグメント利益14百万円が新たに加わる
- 食べる社（2026年7月取得）が連結に加わり、月次の連結売上高は4〜9月のすべての月で前年同月の1.6倍超

出所：2027年3月期 第2四半期決算短信、半期報告書（第33期中）

FROM EBITDA TO NET INCOME (H1)

上期の経常利益・純利益には、補助金収入や固定資産売却益等が含まれる

調整後EBITDAの内訳（上期累計・百万円）	金額
営業利益	**17.9**
（＋）減価償却費	16.7
（＋）のれん償却費	39.2
（△）株式報酬費用（戻入）	5.3
（＋）一過性のM&A関連費用等	2
調整後EBITDA	**70**

一過性のM&A関連費用等は、開示された調整後EBITDA（百万円未満切捨て）との差額として算出

臨時休業等による損失4.5百万円：ワイエスフードが運営を受託している「ほうじょう温泉ふじ湯の里」が、設備点検のため約2か月間、浴場営業を休業したことによるもの

固定資産売却益36.1百万円：2026年8月12日開示の固定資産譲渡によるもの

営業利益から純利益へ（上期累計・百万円）	金額
営業利益	**17.9**
（＋）営業外収益	33.5
うち補助金収入	22.1
（△）営業外費用	10.0
経常利益	**41.4**
（＋）特別利益	41.3
うち固定資産売却益	36.1
（△）特別損失	9.7
うち減損損失／臨時休業等による損失	4.5
税引前中間純利益	**73.0**
（△）法人税等	37.6
親会社株主帰属中間純利益	**35.6**

出所：2027年3月期 第2四半期決算短信（中間連結財務諸表）。端数処理の関係で合計が一致しない場合があります。非支配株主に帰属する中間純損失0.2を含む。

SEGMENT INFORMATION (APR–SEP 2026)

飲食事業が前年同期比80.1%増。フードテックDX事業は売上高274百万円

(百万円)	売上高	前年同期比	セグメント利益	前年同期
飲食事業	1,214.5	+80.1%	89.7	41.4
フードテックDX事業	274.2	-	14.3	-
不動産賃貸事業	17.2	-1.9%	5.3	3.7
運営受託事業	45.1	-19.8%	-9.6	-0.7
調整額（全社費用）	-	-	-81.8	-41.0
合計	**1,551.0**	+107.4%	**17.9**	3.3

(単位：百万円。前年同期はフードテックDX事業なし。SBWorks取得に伴い今期から新設)

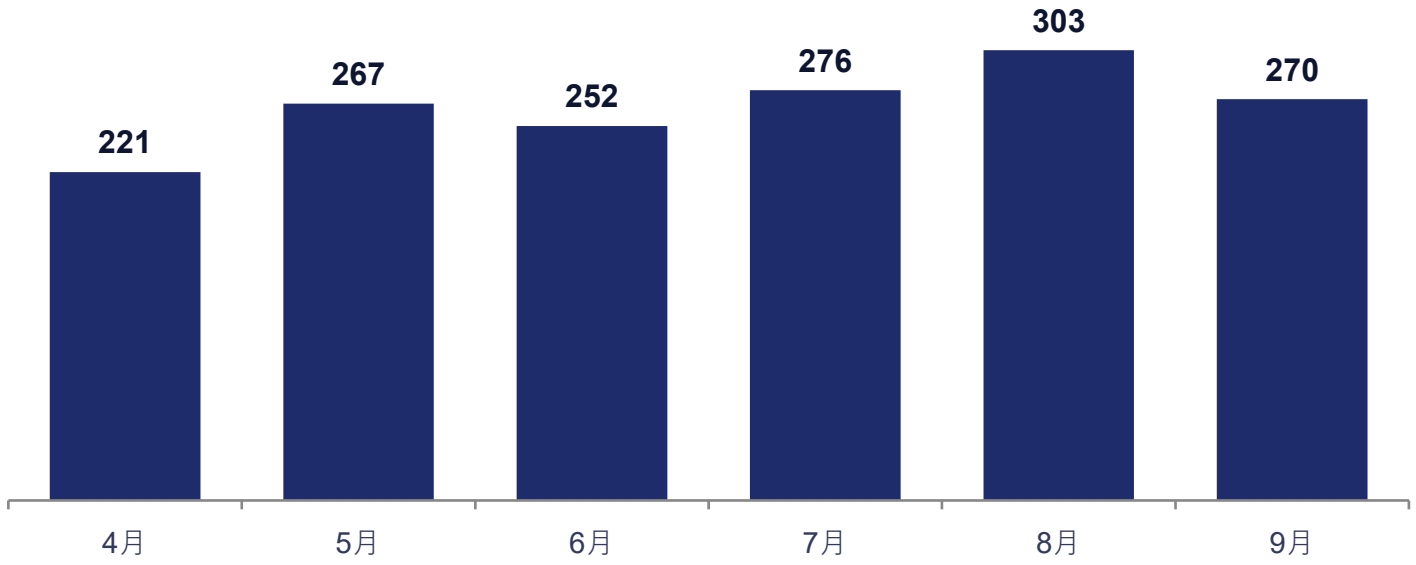
ポイント

- 飲食事業の店舗数は115店舗（2026年9月末）：ラーメン103、焼肉5、その他専門店7（直営22／FC71／海外22）
- フードテックDX事業は、株式会社SBWorksの取得に伴い、2027年3月期の第1四半期決算から新たな報告セグメントとして追加（従来の3区分から4区分に変更）。みなし取得日（2026年5月1日）以降の業績で、中期経営計画の「デジタル・フードテック戦略」を担うセグメント
- 調整額△81.8百万円は、報告セグメントに配分していない全社費用（主に管理部門）。グループ管理・M&A推進体制など持株会社機能に係る費用で、売上高比では5.3%（前年同期5.5%）
- 運営受託事業は、P.7記載の「ほうじょう温泉ふじ湯の里」の臨時休業（設備点検のため2026年8〜9月の約2か月間、浴場営業を休業）の影響もあり、売上高・セグメント損益とも前年同期を下回る

出所：2027年3月期 第2四半期決算短信（セグメント情報）。四捨五入のため合計が一致しない場合があります。

MONTHLY CONSOLIDATED SALES (PRELIMINARY)

M&Aの連結寄与により、月次売上高は220〜300百万円で推移



前年同月比(%)	4月	5月	6月	7月	8月	9月
連結売上高	165.4	226.3	235.6	222.6	190.0	194.8

トレンドの背景

- 前年同月比は165.4〜235.6%。増収の主因は、前連結会計年度に取得した子会社群、SBWorks、食べる社の連結寄与
- ラーメン部門（既存）の売上高前年同月比は101.8〜112.1%で推移
- 店舗数は114店舗（4〜6月）から115店舗（7〜9月）に増加

出所：月次売上高（速報）に関するお知らせ（4〜9月分）。監査前の速報値で、収益認識に関する会計基準に伴う調整は反映していません。

MONTHLY SALES BY SUBSIDIARY AND FORMAT

各子会社の月次売上高と、業態別の店舗数・売上高の推移

主要子会社別売上高(百万円)	4月	5月	6月	7月	8月	9月
ワイエスフード	112	107	98	113	119	103
Yappa	32	36	32	35	36	32
KINKA FAMILY JAPAN	36	35	29	30	27	28
バーガーレボリューション	27	28	18	19	19	22
食べる	-	-	—	25	24	22
SBWorks	—	48	60	39	63	48

業態別(百万円)	4月	5月	6月	7月	8月	9月
全店舗 売上高	**193**	**191**	**166**	**210**	**219**	**205**
ラーメン	97	92	86	99	110	100
焼肉	24	27	24	27	28	24
その他専門店	70	72	55	83	80	81
店舗数(店)	114	114	114	115	115	115

新店舗に関する主要トピック

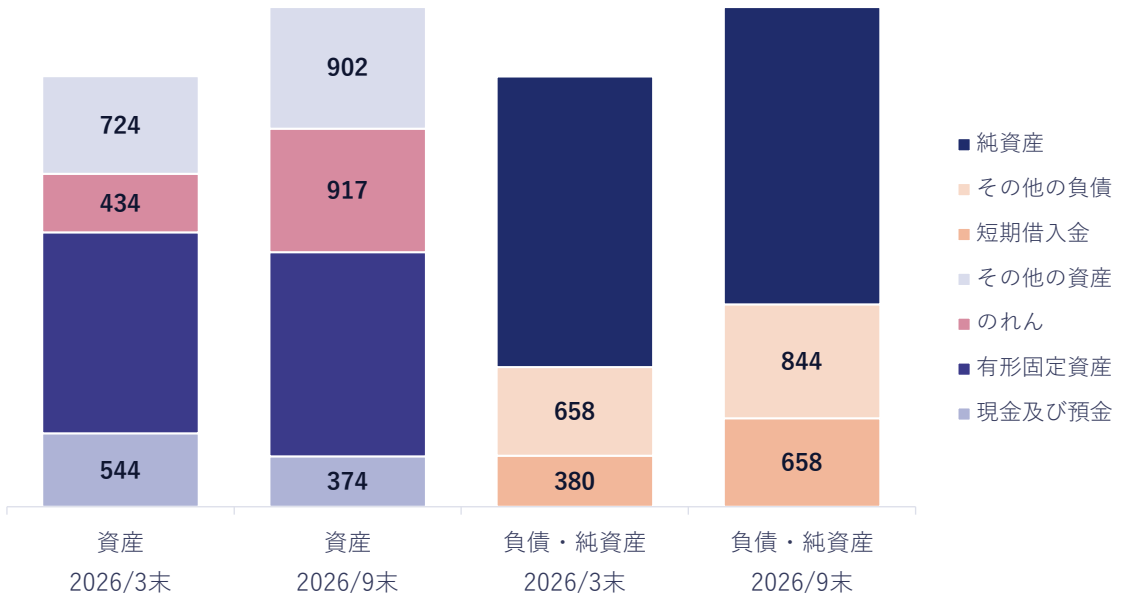
- Yappa：次世代オーダーシステム「WaoPad」導入第1号店となる「焼肉やっぱ。新百合ヶ丘店」を2026年10月にオープン
- バーガーレボリューション：京都・祇園エリアに「祇園店」を2026年7月にオープン

出所：月次売上高（速報）に関するお知らせ（4〜9月分）。SBWorksは2026年5月、食べる社は2026年7月から連結。監査前の速報値。

BALANCE SHEET AND CASH FLOW (SEP 30, 2026)

SBWorks・食べる社の取得により、のれんが434百万円から917百万円に増加

貸借対照表の比較（百万円）



総資産 3,196 → 3,709 ／ 自己資本比率 66.5% → 58.8%（百万円未満切捨て）

営業CF

+15

税引前利益72、未払金減少△37、法人税等支払△16

投資CF

△493

子会社株式取得△478、有形固定資産取得△115、同売却＋100

財務CF

+307

短期借入金の純増＋276

ポイント

- 現金及び現金同等物は374百万円（前期末比△170百万円）
- 資本剰余金が625百万円減少、利益剰余金が670百万円増加したのは、2026年7月31日付で効力が発生した資本準備金の額の減少及び剰余金の処分（欠損填補）による。純資産合計への影響はない
- 2026年7月30日付で当座貸越契約（限度額300百万円）を締結。M&Aや出店等の成長投資のバックアップライン

出所：2027年3月期 第2四半期決算短信（中間連結貸借対照表・キャッシュ・フロー計算書）、2026年7月22日開示

Q2 TOPICS (JUL–SEP 2026)

期中に開示した主な事項（2026年7月～9月）

財務・資本政策

7/22
当座貸越契約の締結（筑邦銀行、限度額300百万円）

7/24
第5回新株予約権の取得及び消却の効力発生

7/31
資本準備金の額の減少及び剰余金の処分（欠損填補）の効力発生

8/12
固定資産（土地・建物）の譲渡を決定（譲渡価格100百万円）

海外展開

8/13
Onono Corporation・Onono Villageと業務提携（「山小屋」商品のモンゴル市場への供給）

8/13
台湾における合弁会社の設立及び事業の譲受けに関する基本合意書を締結

8/13
スリランカ民主社会主義共和国での飲食店出店の検討を開始

事業・店舗

7/1
株式会社食べるを完全子会社化

7月
バーガーレボリューション「祇園店」を京都・祇園エリアにオープン

出所：当社の適時開示（IRニュース）、当社プレスリリース。日付は開示日（7月のオープン・連結は実施月）。

DIGITAL FOOD-TECH STRATEGY

自社開発の次世代オーダーシステム「WaoPad」を、2026年10月からグループ店舗へ導入開始



「おすすめ」画面

おすすめメニューを提示して注文を受付



「乾杯画面」

着席直後に定番ドリンクを人数分ワンタップで注文

WaoPad（ワオパッド）の概要

- 客席での注文受付から、厨房・ドリンクコーナーへの指示、注文の一元管理までを担うタブレット用アプリ。SBWorksが自社開発し、汎用タブレットで動作
- コンセプトは「食事をなめらかにして、また来たくなる店舗へ」。着席から会計まで、お客様が迷わず待たずに進める体験を目指す
- 現時点でAIを活用しているのは開発とUXデザインの工程。WaoPad自体へのAI機能の実装は今後進める

展開の3段階

1 グループ導入（2026年10月～）

新規出店・既存店舗へ順次導入し、運用データをもとに機能・操作性を改良

2 AI・ロボット連携（2027年以降）

理由つきのおすすめ、部位に合わせた焼き方案内などのAI機能の実装。外部AI・配膳ロボット等との連携

3 外部展開（2027年以降、検討）

グループ店舗での実績を踏まえ、外部の飲食事業者への提供を検討

旗艦店「焼肉やっぱ。新百合ヶ丘店」（2026年10月13日開業）

- デジタル・フードテック戦略の第1号店（「焼肉やっぱ。」5店舗目、神奈川県初出店）
- WaoPad、配膳ロボット、清掃ロボット、セントラルキッチンへの仕込み集約により、少人数での安定営業を目指す

出所：Beyondge株式会社プレスリリース（2026年10月6日）、当社プレスリリース（2026年10月13日）。2026年5月に当社・SBWorks・Beyondgeの3社で戦略を始動。

WAOPAD: WHERE WE ARE HEADING

一人ひとりの注文傾向に合わせた最適なおすすめを、オーダー画面から

	一般的なテーブルオーダー	WaoPad 現在 （2026年10月〜 グループ導入）	WaoPad 目指す姿 （AI機能の実装後）
おすすめの出し方	全員に同じ固定のおすすめ・ランキングを表示	店舗が選んだおすすめを「おすすめ」画面で提示	**AIがお客様それぞれの注文傾向を読み取り、最適な一品を理由つきで提案**
メニューの見つけやすさ	階層の深いメニューは見つけにくく、注文されにくい	「乾杯画面」で定番ドリンクを人数分ワンタップで注文	**メニューで見つけにくい一品を「お店からのおすすめ」としてお届け**
食べ方・焼き方の案内	紙のメニューやスタッフの口頭説明が中心	厨房・ドリンクコーナーへの振り分け表示で提供を迅速化	**部位に合わせた焼き方などを画面で案内。配膳ロボット・外部AIとも連携**
開発・改良の体制	外部ベンダーの汎用製品。店舗ごとの改良は限定的	グループ内製（SBWorks）。店舗の運用データと声をすぐに反映	**グループ店舗で磨いた機能を、外部の飲食事業者へ提供（検討）**
期待される効果	注文受付の省力化	注文から提供までのスピード向上と省人化	**お客様満足の向上と客単価の向上を同時に実現**

AIリコメンドの狙い　お客様には「自分に合った一品との出会い」を、店舗には客単価の向上を。グループ全ブランドへの導入で効果を積み上げる

「一般的なテーブルオーダー」は当社の認識に基づく一般的な機能の比較であり、特定の他社製品を指すものではありません。AI機能は開発中であり、内容・実装時期は変更となる可能性があります。

FY2027 FULL-YEAR GUIDANCE AND H1 PROGRESS

通期予想は据え置き。下期は新店・M&A等で積み上げ（次頁）

（百万円）	通期予想	上期実績	上期進捗率	下期に必要な水準
売上高	**3,600**	1,551	43.1%	2,049
調整後EBITDA	**250**	70	28.0%	約180
営業利益	**136**	17	13.1%	118
経常利益	**111**	41	37.3%	70
親会社株主帰属当期純利益	**53**	35	67.2%	17
1株当たり当期純利益(円)	**1.40**	0.96	68.6%	0.44

下期に必要な水準＝通期予想－上期実績。上期の経常利益・純利益には、補助金収入22百万円・固定資産売却益36百万円（特別利益）等を含む

下期の構成要因（連結期間ベース）

- SBWorks：2026年5月1日（みなし取得日）から連結。上期は5か月分、下期は6か月分
- 食べる社：2026年7月1日から連結。上期は3か月分、下期は6か月分
- 外食産業は年末年始の需要等により、下期に売上・利益が偏る季節性がある
- KINKA FAMILY JAPANにて、第3四半期に「渋谷センター街店」の開業を予定
- M&A：現在、複数の案件でデューデリジェンスを実施中。下期中の実行を目指す（次頁）

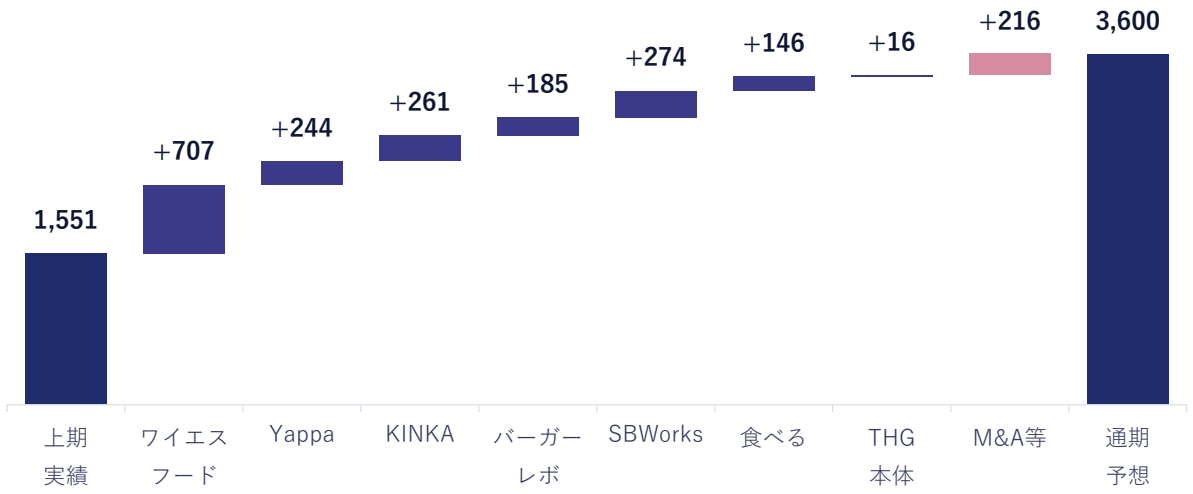
今後の事業展開等を踏まえ、業績予想の修正が必要となった場合には、速やかにお知らせします。業績予想は現時点で入手可能な情報に基づくものであり、実際の業績は様々な要因により異なる可能性があります。

BRIDGE FROM H1 RESULTS TO FY2027 GUIDANCE

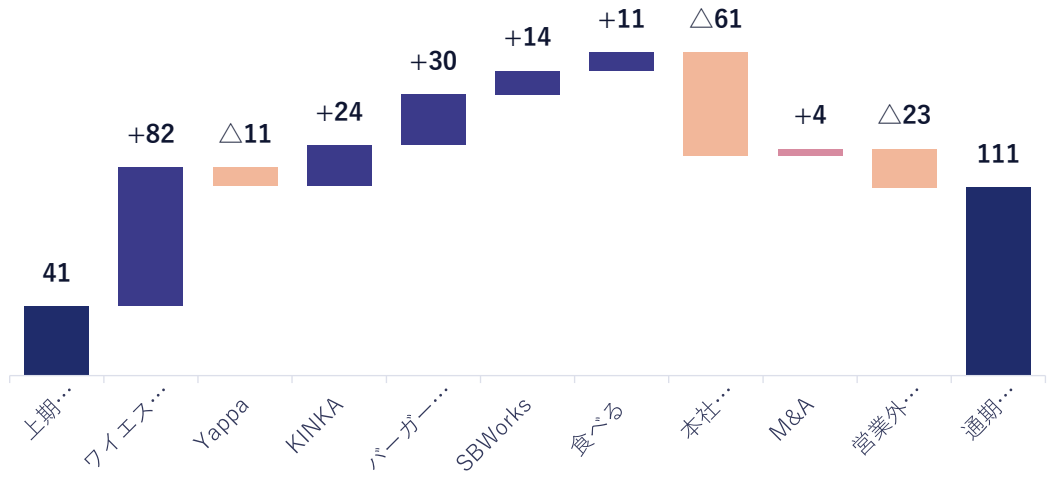
既存事業で通期予想の94〜96%を積み上げ、残りを下期のM&Aで上乗せ

実績・予想　既存事業の寄与　M&A　減少

売上高（百万円）　上期実績＋下期の会社別寄与



経常利益（百万円）　上期実績＋下期の会社別営業利益



下期の積み上げの考え方

- 既存事業：年末年始の需要、新店（焼肉やっぱ。新百合ヶ丘店・KINKA渋谷センター街店）、食べる社の連結期間拡大（上期3か月→下期6か月）
- Yappaは原価率の改善を織り込まない保守的な前提。改善が進めば上振れ余地

M&A　下期に1件以上の実行を目指す

- 現在、複数の案件でデューデリジェンスを実施中。寄与は年度内の連結期間（数か月分）を想定
- 飲食事業承継事業（THG Cairn Alpha）の寄与は含まない（2027年3月期への影響は軽微。P.21参照）

下期の会社別寄与は2026年11月時点の社内見込みに基づき、通期予想（2026年5月15日公表）を分解したものです。各社の利益はグループ内の経営指導料の授受前。M&Aの実行は決定次第お知らせします。

DIVIDEND

2017年3月期以来、10期ぶりの配当。2027年3月期の年間配当は2円を予想

中間配当（2027年3月期）｜10期ぶりの復配

1.00円

2026年11月13日開催の取締役会で決議（5月15日公表の予想どおり）。配当支払開始予定日：2026年11月30日

配当性向（年間予想ベース）

142.9%

年間配当2.00円÷予想EPS1.40円。一時的に100%を超える水準だが、中期経営計画における復配の起点と位置づけ

	第2四半期末	期末	合計
2026年3月期（実績）	0.00	0.00	0.00
2027年3月期	**1.00**	**1.00**	**2.00**

中期経営計画における株主還元方針

- 2027年3月期以降の復配（1円以上）を起点に、計画期間中の配当性向30%以上を目安とする方針。最終年度（2031年3月期）に配当10円を目指す（いずれも業績動向により変更の可能性あり）

資本政策

- 2026年7月31日付で資本準備金の額の減少及び剰余金の処分（欠損填補）が効力発生。2026年9月末は資本剰余金490百万円、利益剰余金30百万円

出所：2027年3月期 第2四半期決算短信、2026年2月27日公表 中期経営計画。前回の配当は2017年3月期の期末配当（1株5円）。期末配当は業績等により変更の可能性があります。

SHAREHOLDER BENEFITS

グループ共通の「株主ご優待券」で、ラーメン・焼肉・寿司・バーガーのお店へ



グループの全ブランドでご利用いただけます

山小屋／元祖山小屋／ばさらか／一康流／やまごや／香春ちゃん／焼肉やっぱ。／神戸牛焼肉 當麻／KINKA／バーガーレボリューション／ROTISSERIE★BLUE／ほうじょう温泉 ふじ湯の里 ほか

お店で味わっていただくことが、ブランドを知っていただく一番の近道です

優待券を受け取るまで

1 **2,500株以上を1年以上保有**

基準日の株主名簿に、同じ株主番号で3回連続で記載されていること

2 **年2回（3月末・9月末）ポイントを進呈**

保有株数に応じたポイント（1ポイント＝1円相当）をお送りします

3 **ポイントを「株主ご優待券」に交換**

1枚1,000円の優待券として、グループのお店でお使いいただけます

保有株数ごとのポイント（1ポイント＝1円相当）

保有株数	1回あたり	年間（2回分）
2,500株以上	2,050	**4,100**
7,500株以上	8,000	**16,000**
15,000株以上	20,000	**40,000**
25,000株以上	40,000	**80,000**
50,000株以上	100,000	**200,000**

ポイントはオンラインショップ「山小屋からの贈り物」の商品にもお使いいただけます。詳細・対象店舗は当社ウェブサイトの「株主優待」ページをご覧ください。このほか、3月末基準でQUOカードを進呈しています。

TRAILHEAD GLOBAL HOLDINGS

今後の展望

M&Aで獲得したIPを国内で磨き、海外で飛躍させる

GROWTH STRATEGY

国内M&Aを続けながら、海外は「検討」から「実行」の段階へ

① M&AでIPを獲得

焼肉やっぱ。 / 山小屋 / 神戸牛焼肉 當麻 / KINKA / BURGER REVOLUTION / 三代目玄 KURO / SBWorks

② 国内で磨く

**製麺・セントラルキッチン・WaoPadで
グループの運営基盤に乗せ、
収益力とブランド力を高める**

③ 海外で飛躍

磨いたブランドを、現地パートナー
との合弁・商品供給・FC等で
海外へ展開

国内：M&Aを継続

- 上期にSBWorks（フードテック）・食べる社（ロケ弁）を取得。飲食領域で8ブランド以上への拡大を目指す
- 現在も複数の案件でデューデリジェンスを実施中。下期以降も国内M&Aを継続
- 飲食事業承継事業を開始し、後継者不在の名店のブランドを承継（次頁）

海外：アクションを開始



1. **台湾**　合弁会社の設立及び事業譲受の基本合意（2026年8月）
2. **モンゴル**　Onono社と「山小屋」商品の供給で業務提携（2026年8月）
3. **スリランカ**　飲食店出店の検討を開始（2026年8月）

海外店舗 22店舗（2026年9月末）

中期経営計画 最終年度（2031年3月期）の目標　売上高 200億円 ｜ EBITDA 20億円 ｜ 店舗数 500店舗 ｜ 配当 10円

OUTLOOK: RESTAURANT BUSINESS SUCCESSION

後継者不在の名店を承継し、当社グループの運営基盤で再成長させる新事業

承継の対象

後継者不在等の課題を抱える
飲食店のブランド・店舗
（当面はラーメン）

→

承継・運営

事業子会社
THG Cairn Alpha株式会社
（当社100%出資・2026年12月設立予定）

→

再成長

居抜き物件の活用等で初期投資を
抑えながら、首都圏郊外のロードサイドに
大型店（50席以上・駐車場付き）を出店

事業開始の背景

- 国内の飲食業では、経営者の高齢化や後継者不在により、地域で長年愛されながら存続が危ぶまれる店舗が増加
- 子会社ワイエスフードは、ラーメン「山小屋」を中核に、店舗運営・製麺・スープの製造供給・人材育成のノウハウを保有

本事業が目指すもの

- ブランドと味を守りながら、グループの運営基盤と上場企業グループの信用力で新たな成長軌道へ
- 地域の食文化と雇用を守る事業承継の受け皿としての社会的意義と、店舗数・収益規模の拡大という成長戦略を同時に実現
- ここで育てたIPを「山小屋」（とんこつ）や「KINKA」（寿司）などと並ぶ海外展開フォーマットへ昇華させ、海外での飛躍を狙う

本事業の開始及び事業子会社の設立が2027年3月期の連結業績に与える影響は軽微です。中長期的な成長を牽引する事業と位置づけています。

OUTLOOK: ROLLOUT STRATEGY AND SCHEDULE

ドミナント展開で、2032年3月期に30店超・売上高20億円超を目指す（計画値）

出店戦略

- 神奈川県央・多摩エリアを初期ブロックとし、横浜・川崎内陸、千葉内房、埼玉、西湘・静岡東部へ、ブロック単位でドミナント展開（各ブロック4〜6店が基本）
- 承継ブランドを看板に、グループ内の兄弟ブランドの商品を副メニューとして組み合わせる「主＋副」型の店舗フォーマット
- 物件は居抜きの活用を基本とし、初期投資を抑えて出店（居抜きが不足する場合は建て貸し等も活用）

グループ内の役割	内容
当社	ブランド（知的財産）の保有・管理、資金調達、事業全体の統括
事業子会社	店舗の保有・営業
ワイエスフード	店舗運営の受託、麺・食材の製造供給、人材育成

資金調達：店舗の承継・出店に要する資金は、事業子会社において社債の発行等により調達する予定。本事業に伴う当社の新株発行は予定していません。本事業の拡大に応じて、同様の事業子会社を順次設立する予定です。

スケジュール

2026年11月13日
取締役会決議

→

2026年12月（予定）
事業子会社の設立

→

2027年1月（予定）
第1号案件の実行（ラーメンブランド1件・既存2店の承継）

→

2027年3月（予定）
大型新店1号店の開業

目指す規模は現時点の計画値であり、承継案件・出店物件の確保状況等により変動します。個別の承継・出店は、決定次第お知らせします。出所：2026年11月13日開示

TRAILHEAD GLOBAL HOLDINGS

本資料に関するお問い合わせ先

IR担当窓口までお問い合わせください

IR Contact · ir@thg-hd.com · thg-hd.com · TSE Standard · 3358